

雜 錄

○兒童教養研究所の設立

兒童教養研究所なるものが北垣守氏に依つて設立せらるゝことゝなりました、本年を出發點として先づ當歳兒の研究より開始し、進んで滿十四歳に至る迄の兒童の教養に關する萬般の研究をなし併せて之れを實地に應用し、直接間接に兒童の幸福を増進するのが該研究所の目的ださうであります。名譽職、役員諸氏は次の通りです。

名譽顧問 理學博士 男爵 菊池大麓

名譽所長 (未定)

副所長(所長代理) 巖谷季雄

理事長 北垣守

副理事長 (未定)

理事	成澤金兵衛
理事	文學士 黒田明信
理事	ドクトル 三田谷啓

顧問	高島平三郎
----	-------

顧問	工學博士 塚本靖
----	----------

顧問	醫學博士 唐澤光徳
----	-----------

顧問	文學士 棚橋源太郎
----	-----------

顧問	文學士 倉橋惣三
----	----------

顧問	法學士 福田秀五郎
----	-----------

相談役	醫學士 河合三郎
-----	----------

相談役	醫學士 所秀三
-----	---------

相談役	加藤勇
-----	-----

尙該研究所は五月五日に開所式を舉行する筈であります、その設立趣旨を見ますと設備の概略として次の如くに掲載せられて居ります。

本館

下目黒(市電終點及山手線目黒停車場より二丁)通稱權之助坂下)に建築中にして五月落成の豫定なり。

建物の内部

事務室、研究室、集會室、兒童圖書室、兒童博物館等に當つ。

兒童樂園

建物の周圍約二千坪は之を兒童樂園と稱し、兒童の好愛する動物を飼育し、日常生活に必要な樹木並に花卉を栽培し、芝生を作りて遊戯場及運動場となし、諸種の運動器具を備へ、水田、苗圃を設けて米作の實況を示し、又水禽及魚類を飼養す。

○フレーベル紀念日講演會

フレーベル紀念日講演會は四月二十一日午後一時より東京女子高等師範學校講堂に於て開催せられ、理學士田邊尙雄氏の「音樂の味ひ方」なる講演あり、斯道の權威たる同學士の平明なる説明と蓄音機に依る泰西名曲の例奏と相俟つて有益有趣の講演なりし。

○郡山幼稚園報告書

郡山町字堂後の郡山幼稚園から「第九回保育満了證書授與式報告」なる書類を送り越されました非常に精密な報告書で全部掲載するとよろしいのですが餘白がありませんので同報告書よりの摘要の抜萃を次に採録いたします。

第九回保育満了證書

授與式報告

(幼兒を同席せしめたる式に於て事務の報告をなすは、幼兒には無趣味にして、往々倦怠を招き式の尊嚴を傷くるの恐れ

あり、よけて、席上の報告を簡略にするがためにこゝに印刷に付して列席の諸賢に頒つ所以なり)

▲保育日數 二百五十九日 (大正五年四月三日より同六年三月二十日まで)

▲幼兒

- (イ) 入園數 百〇七人 (男六十三人 女四十四人)
 - (ロ) 退園數 二十三人 (男十五人 女八人)
 - (ハ) 死亡數 五人 (男三人 女二人)
 - (ニ) 保育滿了 六十九人 (男三十八人 女三十一人)
 - (ホ) 居残り幼兒 二十七人 (男十五人 女十二人)
- 身心の發育不十分なるため、學齡に達したるも、尙保育の繼續を請はれたるもの今回の保育滿了者中に一人あり、又來年度の分にも一人あり

▲精勤幼兒

(イ) 無缺席幼兒 (五歳以上にて男三人 女五人 五歳以下にて男〇人 女一人)

計 九人 (男三人 女六人)

○一年間中缺席三日以内のものを精勤幼兒と稱す、左の如し

(ロ) 精勤幼兒 (五歳以上にて男四人 女四人 五歳以下にて男二人 女〇人)

計 十人 (男六人 女四人)

▲保育の實際

(イ) 組 別

○幼兒全體を三組に分ち、内二組 (梅、櫻の組) は今回保育滿了の幼兒にして他の一組 (桃の組) は居残りて二ヶ年保育の幼兒なり

(ロ) 園外保育

○本年保育方針の一は身體の健全なる發達を計るにあるを以て、室内よりは園庭に園庭

よりは園外に於て保育をなしたり。

1 共樂公園に六回

2 安積國造神社、大正舎牛舎に各二回

3 開成山公園、高等女學校、農事試驗場に

各一回

▲保育法研究

(イ) 學術の研究

○放課後、職員集合して、教育、保育、心理修養等の諸學に涉りて研究すること實に百

○八回に及び左の數種の書籍を讀了したり

高島平三郎著 『婦人の生涯』

倉橋 惣三著 『保育法原論』

水田 光子著 『お話の研究』

三田谷 啓著 『幼兒の精神査定及取扱』

フリーベル會編 『婦人と子供』

麻生 正藏著 『家庭教育の原理と實際』

福島 政雄著 『兒童の模倣』

柏木 三郎著 『實用教育學』

澤柳政太郎著 『ベストロッツチ』

三市保育會編 『保育會雜誌』

(ロ) 實地の研究

○毎月數回保育法の實地研究を行ひ各自參觀して批評を交換せしこと二十三回に及びたり。

(ハ) 自由研究課題

○職員相互課題を掲げて、研究したるもの左の如し

1 保育擔任法の研究

2 附添人と幼兒との關係

3 保育滿了期に近づける幼兒の躰方

4 幼兒に賞品を與ふるの可否

5 活動寫眞の善用法

6 幼兒の机の排列法

(以下略)